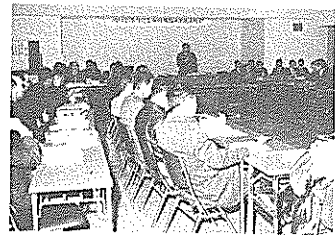


3月



### 周辺整備対策協議会が発足

空港拡張に伴い実施される周辺地域開発を円滑に実施するために——と、『高知空港周辺整備対策協議会』が、3月1日発足しました。

この協議会は、田村、物部、久枝、前浜、三和、大篠の6地区から選ばれた委員や顧問、参与ら60人で組織され、道路・河川・環境の3部会に分かれてそれぞれ専門的に審議していくというもの。

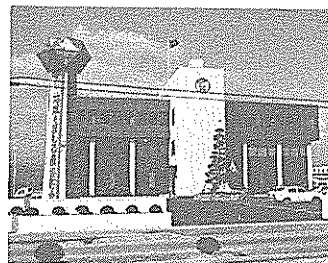
当日は、役員の選出や予算の審議などを行い、会長に西内四郎県議（久枝）を選びました。

2月

### 農協会館が完成

農業全般に関する総合施設として——南国市農協が52年6月から工事を進めていた『南国市農協会館』が、南国バイパス沿いに完成、2月21日落成式が同会館で行われました。

完成した会館は、1階が農協事務所、営農相談室、農業実習室、電算室、青年婦人部。2階が会議室、料理教室、生産部会室、和室、研修室、図書閲覧室。3階が大研修室、結婚式場など。



2月

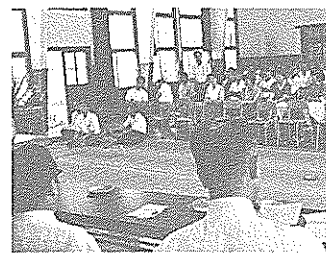
### 市に地元負担かけない



高知空港拡張で問題となっている周辺整備事業と地元負担金を明確にするための会合が2月9日、市役所で開かれました。

当日は、県側から中内知事、町田副知事他、小笠原市長らあつせん人、市関係者、市議会議員、地元住民80人あまりが出席。このなかで中内知事は、『周辺整備事業は事業別に年次計画を立てて、順次実施していく。その事業に伴う地元負担は県主体の基金制度を考え、南国市には負担をかけない。』と、口答で約束しました。

1月



### 市内各地で市政懇談会

市政の実情を報告し、市民の声を聞く『市政懇談会』が、1月25日に岡豊町、6月28日十市、10月20日岩村、11月18日長岡東部で、それぞれ開かれました。

岡豊では長大周辺の市街化の問題、十市ではパークタウン計画や黒潮ライン、小学校改築問題、岩村では農業後継者対策や農用地区域の除外、長岡東部では広域農道や財政問題、などについて熱心な討議が行われました。

# この一年

53年のできごと

小笠原市政が誕生して、今年で4年目をむかえることになる。市長は、財政、空港、同和の3本柱を施政に力をつけてきたが、その財政再建は第1次再建が終わり、第2次の開発公社再建へ移ろうとしている。空港拡張も56年度末開港に明るい見通しがついた。同和問題では特別措置法が5年の延長となった。

また、今年は秋に市長、市議会議員の選挙があり、過去4年間の成果が問われる年でもある。

今年54年には——市民、議会、市の三者が一体となることによって、『さわやかな町づくり』を進めていきたいものである。

そのためにも、この1年をふり返って明日への糧にしていこうではありませんか。



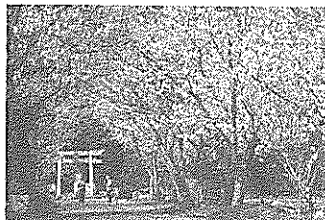
4月

### 桜の名所にしよう

大垣の吾母山南側、熊野神社。この参道、約300本の両側に100本あまりの桜並木が続き、毎年4月頃のシーズンになるとみごとな『花のトンネル』を作り上げ、話題になっています。

この桜並木は、下大垣の老人クラブ『千歳会』のお年寄りたちが育ててきたもの。

地元の人たちの協力もあり、参道の整地、ベンチやゴミ箱の設置なども行われ、『桜の名所に、市民のいこいの場にしよう』という声が高まっています。



3月

### 山、海、野の幸いっぱい

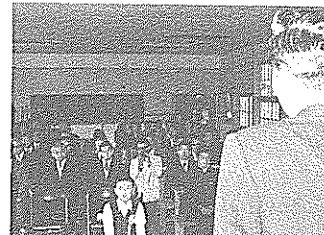
豊富な山、海、野の幸。市の物産を市民に広く知ってもらおう。

市商工会の主催による『第1回南国市物産まつり』が3月31日、市民体育館に約3,000人の市民が訪れ、盛大に開かれました。

当日は、食品業者を中心に100店あまりが出店され、実演販売。また、包丁の無料研ぎコーナーや食事コーナーも開設され、訪れた買物客に喜ばれていました。



3月



### 過疎化の黒滝小が閉校

押しよせる過疎化の波により、明治以来86年の伝統を持つ黒滝小学校が、3月25日閉校となりました。

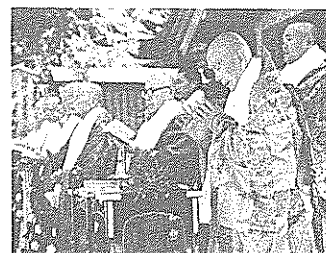
この日は、たった1人の児童の卒業式と同時に行われ、ふだんは訪ずれる人の少ない黒滝の地に多くの人々が集まり別れを惜しみました。黒滝小学校の卒業生は676人目になり、同校長は歴代31人目となり、過疎化とはいえ閉校となると悲しい限りです。

2月

### 国分寺で落慶法要

四国霊場第29番の札所国分寺で、2月8日、書院と鐘樓堂が完成しました。旧書院は今から320年あまり前の慶安年間に建設したもので、また鐘樓堂は寄進により今回の建設となったものです。

文化交流の場としてまた青少年錬成の道場として利用されることになります。そして、鐘樓堂ができたことにより、大みそかには国分の里にも除夜の鐘が鳴り響きました。



7月

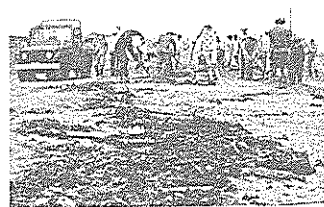
## 大篠小、香南中改築着工

どちらも老朽化がひどく改築にふみきったもの。大篠小は3年計画で完成予定でまず本年度は3階建校舎1336㎡を建築、香南中は54年10月までに3階建職員室や特別一般教室など2621㎡を建築します。

両校とも地元などから着工の必要性が早くから訴えられていたのですが、財政難などから他にも同様の施設もありながらようやく着工にこぎつけたものです。



6月



## 廃油ボールが漂着

6月13日高知港沖でみつかった廃油ボールの帯はその後室戸、安芸の海岸へも漂着、南国漁民などの心配どおり6月17～18日にかけ「やっかいもの」が漂着し地元の漁業関係者や市職員が出て能率のあがらない手作業回収をしました。

このボールは油のかたまりが小さく、日中の温度の高まりにつれてそれが砂やごみにべったりとはりつき作業を一層はかどらないものになりましたが、作業の合間に交す会話は「不見識な犯人」へのいきどおりが一番多く聞かれました。

6月



## 岡豊保健婦駐在所が完成

岡豊地区と上倉地区が担当の岡豊の保健婦駐在所一今までは独立した場所がなく、支所と同居していましたがやっと「独立」がかない、西隣の旧宿直室を改造して移転しました。

まだまだ十分な設備はありませんが、従来と比較すれば雲泥の差です。両地区のみなさん、保健に関することはお気軽にご利用下さい。電話は④2423です。

5月

## 空港整備事務所が完成

高知空港の拡張、整備を急いでいる県の「前線基地」ともいえる整備事務所が完成、5月4日にその開所式が現地で行われました。場所は国道55号線と県道前浜一土佐山田線の交差点東側（田村）で事務所は鉄骨2階建て（延べ466㎡）で、1階が空港対策課と土地開発公社、2階が耕地専務所となります。

空港をめぐる課題はいぜんとして山積しています。市や市民の損害をいかに「ゼロ」に近づけていくか、意義深い事務所完成です。



4月



## 公有地処分の審議会

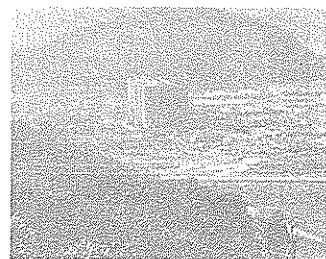
財政再建のなかで大きな課題となっている北部運動公園用地（比江）の処分などを審議していこうと、4月18日、「公有地処分に関する審議会」が発足。

審議会は10人の市議会議員で組織され、会長は浜田健夫市議。

小笠原市長は4月25日、急務とされるこの公園用地の処分について、審議会に諮問しました。

4月

## 高知医大が開校



岡豊町小蓮の国立高知医科大学（平木潔学長）で4月17日、初の入学式が行われ、1期生103人が関係者らの祝福のなか医学の道へ第一歩を踏み出しました。

22万平方にあまりの構内には、これまでに講義棟と実習棟の2棟が完成。57年度までに全施設が完成する予定。

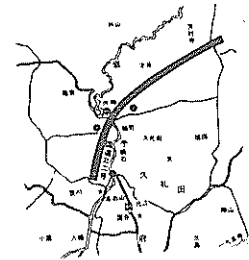
県下の医療の中枢として期待がかけられる「高知医大」がスタートしました。

8月

## 南国インター対策協が発足

四国横断自動車道の建設予定地になり、南の玄関口となる領石で8月14日、南国インターチェンジ対策協議会（大川邦昭会長）が発足し、地域におよぼす影響に対応して周辺整備、環境問題に取り組んでゆくことになりました。

対策協議会は、学識経験者や地元代表の15人のメンバーで構成しており、高速道計画の進展により活動を具体化させ、すでに中国縦貫道の視察も活発に行っています。



8月

## 後免商店街診断まとまる



高知県は「旧態依然とした後免町商店街」を松山商大、井上教授を特別診断員に迎え診断をおこない、その内容を報告しました。

それによると今の商店街は昭和25～30年代の街で人口1万人対応規模だとときびしく診断しています。

この商店街をよくするためには集団移転か現在地での思い切った再開発しか考えられないが、集団移転の可能性は極めてうすいとして、経営者意識の高揚と商店街組織の強化等により、商店街近代化をはかるべきだと勧告しています。

7月

## 岡豊町小蓮でまた遺跡

「舟岩古墳群」のすぐ近くで、弥生時代中期末の縦穴式住居跡（狭間遺跡）と四世紀末から五世紀のころのものと思われる古墳の複合遺跡（狭間古墳）が発見されました。

住居跡からは柱穴、炉跡、龍河洞式や神西式の土器片、貯蔵穴も出土しました。

直径約12cmの円墳からは、3基の木棺基の遺構が出土、これは約20cmの赤土の上に、約5cmの粘土を敷き、その上に組み立て式の木棺を置いていたと推察されます。



6月

## 高知一名古屋便が就航

地方の優良空港「高知空港」に高知と中京、名古屋を1時間20分で結ぶ「空の新幹線」が1日より1日1往復開設されました。

これにより新しい日本の経済圏と高知の距離が近くなったわけで高知県経済の振興にかなり期待がもてそうです。

1日の式典には市長や副知事がテープカット、プラスバンドやよきこい踊り子隊が出演、乗客にも記念品がプレゼントされ、名古屋線就航を祝いました。



5月

## 第1回福祉展

お年寄りや病気で寝たきりの人の家庭での看護と生活指導を中心にした第1回福祉展が5月18、19日に福祉センターで開かれました。

これは南国市民生委員協議会が主催し、市、社会福祉協議会、中央保健所が協力して脳卒中の予防、看護に便利な用品の展示、成人病のビデオテープ、健康相談、家庭看護の実演が実施されました。

特に脳卒中の死亡率日本一の本県の平均を上回る南国市だけに早急に原因究明と対策が望まれます。



5月



## 学校の体育施設を開放

多くの市民のみなさんにスポーツの機会を——学校教育に支障のない範囲で市内小中学校の体育施設が利用できることになりました。

利用できるのは、成人を代表者として市内に在住、在勤、在学する方10名以上で構成、市教委に登録し、スポーツ傷害保険に加入している団体で、利用できる時間は授業日は午前5～8時・午後5～8時、休業日は午前5～午後10時です。

市民のみなさん、スポーツで心と体をきたえましょう。



11月

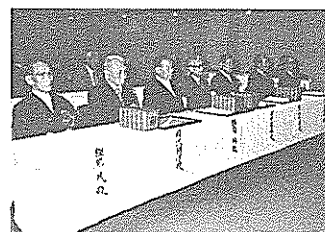
## 定期観光バスにCコース

高知駅を起点とした定期観光バスA、Bコースに加えて、Cコースが開設され、11月10日西島園芸団地で記念式典が行われました。このCコースは、高知駅—西島園芸団地—龍河洞—高知駅と周遊するもので、毎年11月から6月までの季節運行となっています。出発は、毎日高知駅を午後1時40分、帰りは5時55分の半日周遊コース。料金も、大人(中学生以上)が2,200円、小人が1,210円となっています。



11月

## 初の名誉・団体市民賞



第11回を迎えた南国市民賞で、一般の授賞5人の他に、今回が初めての名誉市民賞・団体市民賞の表彰を決めました。

市民賞は、広く一般市民の中から産業、教育、文化、政治、社会労働などの各分野に貢献された功労者やかくれた篤行者などを毎年表彰しているもの。表彰されたのは、国沢耕作さん、鍋島勉さん、豊永茂春さん、田中管雄さん、井上繁子さんと、名誉市民賞の櫻尾茂さん、団体市民賞の大篠長尾鶏保存会でした。

10月



## 第5回文化祭盛大に

市民ならだれでも自由に参加できる文化祭も今年で5年目。今年は物産展・土曜日も共賛して盛大に行われました。

文化祭は、10月29日から11月4日まで行われ、展示部門では絵画、写真、生花、工芸、茶道などが、舞台部門では詩吟、日本舞踊、箏曲などが盛大に行われました。

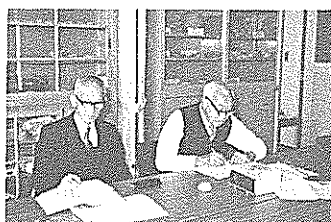
物産展は第2回目となり、この会場では第1回ミス南国竹村喜美子さんと準ミス4人の披露もあり、会場は活気に満ちていました。

9月

## 市史編さん作業順調

54年10月1日の市政施行20周年にむけての市史編さん作業が順調にすすんでいます。

この南国市史は、中世までを収録した上巻と近世以降の下巻に分れており、54年の市政施行20周年までには上巻を製本しようという。上、下とも1,000ページぐらいが予定され、下巻についても55年には引き続き発行できる見通しで、それぞれ2,000部程の出版が計画されています。なお、本市には旧町村史はありますが、市史編さんは初めてのことで。



9月

## 国府保育所が完成

国府保育所の改築工事が9月18日完成し、地元の人々や関係者らが出席して落成式が行われました。これは、今まで使っていた建物が老朽化したため、52年末から園舎北側の地区公民館跡に建築をすすめていたものです。

新しい保育所では、鉄筋コンクリート一部2階建てで、総事業費は7,800万円。保育室、食堂、遊戯室からできています。

なお、これまでの建物は地区公民館として今後も活用されます。



9月



## 黒潮ライン計画で協力要請

40年代から懸案となっていた黒潮ライン(主要県道春野—赤岡線)について、「従来の計画案案をもとにして現地に立入り、実施測量をしたうえで建設計画(案)を作成したい」と、県南国土木事務所長から地元関係者らに協力要請がありました。

これは、観光と交通渋滞緩和を兼ねて、南国・高知両市を除いては整備されており、コースとして海岸線案、現道拡幅案、山手案があげられているもの。南国管内では4,800m、トンネル140m。

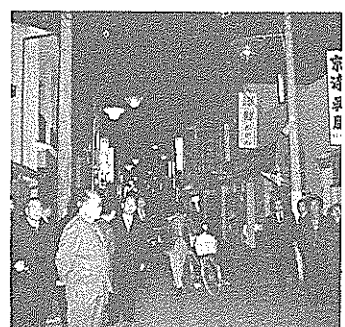
12月

## 後免商店街に「スズラン燈」

後免町商店街に、新しい街路燈49基が完成し、12月15日現地で点灯式が行われました。

これは、市商工会が新設したもので、1基が2灯の水銀灯で成り、柱には防犯灯も備っています。

夜の商店街がぐっと明るくなり買物客にもなかなか好評、地元をはじめ関係者らは「これを契機に地元商店街の振興を」と話していました。



12月



## まだまだ厳しい財政再建

第一次財政再建は予想外の赤字解消となり、51年度、52年度の2年間で3億6,000万円の再建となりました。

しかし、手放しで喜べないのは表面化していない赤字と見られるものが、開発公社に約27億円あるということです。これには売却可能な北部運動公園予定地11億7,000万円もありますが、今後財政再建審議会を中心とした、長期の第2次財政再建計画に着手していくことになります。

11月

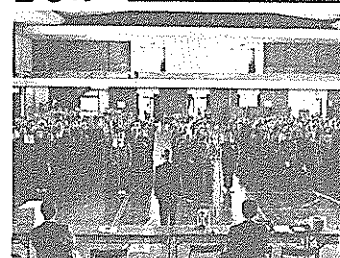
## 好評だった農協祭

農協会館の落成と秋の豊作感謝の意味をこめて、「第1回南国市農協まつり」が、11月11日から3日間、南国バイパス沿いの市農協会館で開かれました。

ここでは、農産物品評会、農協婦人部の生活工夫展、乳牛共進会をはじめ、金融相談や健康相談コーナーも開設され、盛りだくさんの内容となりました。これからは農協をよく知ってもらうためにも毎年開くということです。



10月



## 800人の老人体育大会

“老人の健康と親ばくを”と老人体育大会が、10月22日、市民体育館で開かれ、昨年の2倍のお年寄り800人が参加しました。

この大会は県、市老人クラブ連合会の主催によるもので、今年で2回目。競技は、スプーンリレー、ケツ圧測定、ボール送り、安全運転など楽しいものばかりで、市内8地区に熱戦がくりひろげられました。また、競技の合間には応援合戦も行われ、楽しい一日となりました。

10月

## 瓶岩幼稚園20周年

開園20周年を迎えた市立瓶岩幼稚園(島本保義園長)で、10月4日祝賀会が開かれました。

市内には15の公立保育所がありますが、公立幼稚園では瓶岩と白木谷の2園のみ。この日は、募集していた園章や園歌の発表もありました。

園章は田島国府小教頭のアイデア、園歌は歌詞を園の職員が合作し、麻岡日章小校長が作曲。式典では、園児が園歌を合唱して父兄に披露しました。



10月



## 魔の踏切にしゃ断機

5月から7月にかけて乗用車と列車の衝突事故が相次ぎ、5人の犠牲者を出した魔の踏切(篠原踏切)に、10月2日、しゃ断機がつき作動を始めた。

このしゃ断機設置は住民の施設改善を望む声により、南国署、県市が調査し、国鉄に改善要望を出していたもの。これにより、国鉄は54年度に予定していた改善計画(第1種踏切)に格上げし、設置しました。工事費は約400万円。